

# 外出困難な患者を支える

## 訪問診療に取り組む



十和田市立中央病院  
メンタルヘルス科診療部長  
竹内淳子さん

たけうち・じゅんこ 十和田市生まれ。秋田大医学部卒。岩手県立精神保健センター所長心得、岩手県立

### 略歴

一戸病院リハビリテーション所長、十和田市の高松病院副院長などを経て2009年から現職。46歳。

十和田市立中央病院のメンタルヘルス科は2010年10月から、自力での外出が困難な患者のニーズに応えようと、医師が自宅に向く訪問診療を始めた。軽度の認知症を対象とする「もの忘れ外来」の相談窓口を病院外にも設置し、早期発見に努めている。同科の竹内淳子診療部長に、地域と積極的に関わる取り組みについて聞いた。

「訪問診療を始めたきっかけは、青森県内では初めてだが、全国の先進的な病院では10年ほど前から実践されている。ただ、当院のような総合病院ではまだ少ない。うつ病とパニック障害を扱えながら、末期がん

で緩和ケアを受けている患者がいた。がんの転移で歩くのも困難な状態だったが、精神科の薬を処方するために、外来にきてもらうしかない」という状況にジレンマを感じた。

また、重度の精神障害で家に引きこもってしまった家族が連れ出せないケースもあり、病院側から地域に踏み出していく必要があった。

半年間、訪問診療を行ってみてどうか。

来院をかたくなに拒否していた人が、自宅に行くことがあった。また、家族から聞く話や、診察だけでは分からない普段の生活状況が把握できる利点もある。家庭内での様子や、家族とのやりとりが見られるので、今後の治療方針を決める参考にもなる。

十和田市立中央病院もの忘れ外来は軽度の認知症やアルツハイマー病の患者を診察するため、2009年10月に開設した。毎週木曜日に、病院で外来患者を受け付けている。ほかに、毎週水曜日は週ごとに十和田市保健センター、上十三保健所、十和田市役所高齢介護課に相談窓口を設置。診察に行きにくいという人の相談に乗っている。症状に応じて、市内の民間病院にも紹介状を発行できる。

### メモ

## 院外相談も気軽に利用を

### 時代を

「治療の効果は、まだ効果は限定的だが、早期に治療を受ければ、薬で病気の進行を遅らせることはできる。判断力があるうちに認知症であることを受け入れられれば、財産の整理を済ませるなど、その後の人生をどう送るか本人が決める。

「治療の効果は、まだ効果は限定的だが、早期に治療を受ければ、薬で病気の進行を遅らせることはできる。判断力があるうちに認知症であることを受け入れられれば、財産の整理を済ませるなど、その後の人生をどう送るか本人が決める。



「どんな症状が出たら認知症を疑えばよいか。

火の不始末や、約束を忘れる、今まで使えた家電が使えなくなるなど。家族はつい「年のせい」と思いがちだが、注意して見てほしい。特に糖尿病、高血圧など生活習慣病の人には注意が必要となる。

「地域医療の今後の課題は、

「地域医療の今後の課題は、老老介護や、認知症同士の夫婦、認知症の単身世帯が増加している。仮に家族と同居していても、日中は常に一人きりという認知症の老人も少なくない。医師だけでなく保健師や、介護関係者とネットワークを構築し、地域でどう支えていくかだろう。